

## 早稲田大学 第二文学部 英語 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	長文の中に、文法力、語彙力を見る問題が含まれているので、「長文の問題はこうやって解く決まり」といったワンパターンな解き方をしていると時間が足りなくなるかもしれない。各問題に対してどう解くかという引き出しの多さがある人には簡単。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易
〔Ⅰ〕	内容一致	長文「ナイロビの貧民街キベラの現状と人々」 必ずしも全く一致する記述でもないので、ポイントとなる語句を含む文を探し、消去法で解答すると良い。	やや難
〔Ⅱ〕	空所補充 整序問題	「環境問題の現状と2つの大きな原因」 空欄の前後を確認するとヒントがある。整序問題はオーソドックスな節を含むパターン。	やや易
〔Ⅲ〕	空欄補充	「西洋の水彩画と日本の水墨画」 あくまでも基本語句の範囲なので、選択肢の語句に全く見覚えが無いものがある人は、その時点で無謀なギャンブル受験をしていることに気づくべき。	やや易
〔Ⅳ〕	文正誤問題	ある1つの単語の用法が正しくないものを1つ選ぶ問題。つまり、1つの単語に対して、いくつの意味や使い方を理解しているかを問う。1つの単語に1つの意味といったありがちな「これだけ覚える」の暗記英語では不十分。	やや難

### 〔総合コメント〕

本年度早稲田の全学部に通じてはまることであるが、全体的に単語や文の構造など、易しくなっている。受験生の総合的な学力低下を反映し、合格平均点・最低点を極端に下げない目的もあるが、「問題が簡単になった」という講評を見て喜んでいる受験生は、自らがそれで難しいと思う程、学力低下の波に押し流されているという現状を自覚するべきである。

また、それでも、早稲田はただ「覚える」だけが受験勉強と思っているような学生は入学しても授業についていけないので、思考力を備えている学生を選考したいという意思が見える問題が多く目立つ。

